



山登如

2021年度 付中通信第9号

コロナ禍の楽学その2

2021.9.24 (金) 高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

次に2の件ですが、真っ先に思うのは、高校2年生です。六年制は一年次に海外修学旅行を組んでいましたが、2回の延期の末、この10月に国内（立山・黒部方面）修学旅行を敢行します。この旅行だけは是が非でも成功させたいと切に願っています。一方、校外活動は昨年度ほとんど見送ってしまいましたが、今年度からZoom等のオンライン会議システムを活用し、例年参加してきた研修会等には生徒を積極的に参加させています。

また、海外姉妹校で時差の少ないオーストラリアのサザンクロス校とは、Skypeを使った交流授業で相変わらず盛り上がっています。

去る6月には台湾の建成国民中学校と親善友好の意向書を交換し、アジアに所在する学校と始めて関係を築きました。コロナ禍でもネットを利用すれば、交流を進める

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

『教育の情報化ビジョン』より（平成23年文部科学省）

ことができるし、互いにそういう機運が高まっていると感じています。現在中2生の学年行事を中心に交流授業を計画中です。

最後は3ですが、ICTを活用した授業のレベルアップの方向性には2つあることが知られています。

まず一つは、学校ではアクティブラーニングによる協働学習を中心に持ってくること。これは、問題の発見、課題の設定、解決のプロセスを学ぶことこそが学校本来の役目であり、家庭で進めることが難しいこの学習方法こそ授業の中心に据えるべきだという考え方から生まれたものです。

もう一つは、AIアプリによる生徒の個別最適学習を授業でも取り入れ、ゆくゆくは家庭学習の王道とすること。これは、習得能力に個人差があることを前提に、個々人に見合った学習進度を保障して、無理なく確実に学習を進められるようにしたいという考え方から出ています。そして今、個別最適学習は一人一台タブレットの実現で、その可能性が現実のものとなりました。

一見相反するベクトルを持つ二つの学習方法ですが、これらを同時に成り立たせるためには教師のスキルアップが絶対不可欠です。これからしばらくの間は、二つの学習方法のベストミックスを目指して、研修や実践に熱を入れることになるでしょう。